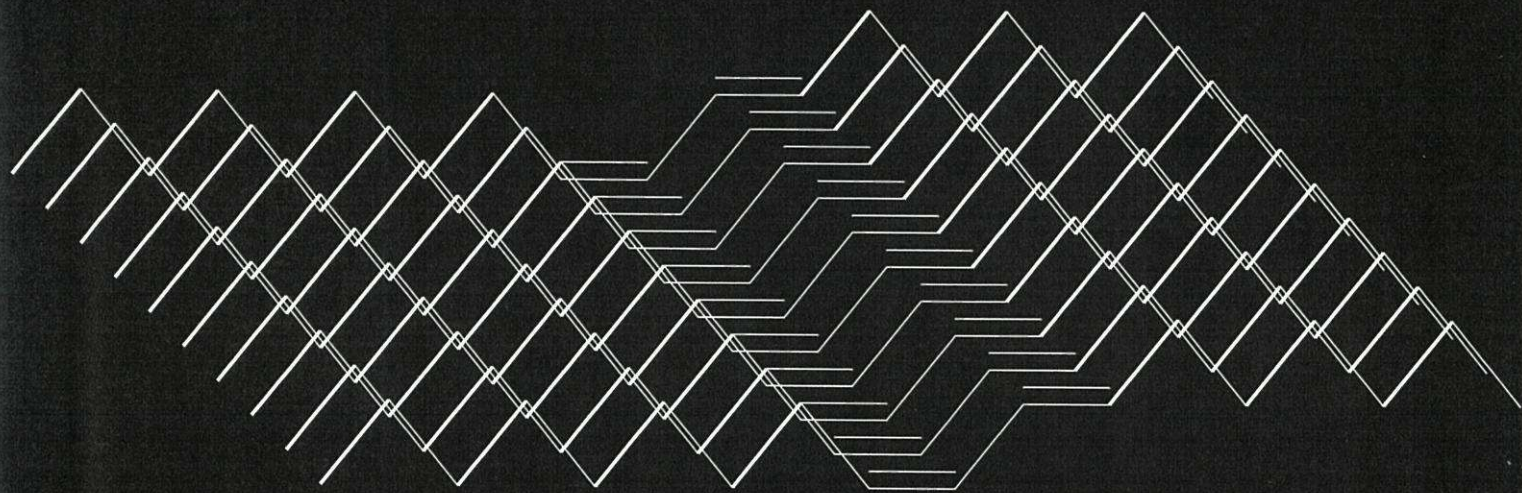


第5回CLA懇話会



懇話会代表 菅野道廣 熊本県立大学長
第5回世話人 宮下和夫 北海道大学教授

場所：函館国際ホテル

日時：平成15年10月25日(土)13時00分より



第 5 回 CLA 懇話会講演内容

2003 年 10 月 25 日(土)

1. 懇話会(函館国際ホテル;13 時~17 時 30 分)

1) 文献に読む我が国における CLA 研究の現状

(熊本県立大)菅野道廣

2) リソソーム崩壊と 10*trans*, 12*cis*-CLA によるアポトーシス誘導効果

(¹オーム乳業開発部、²九大院・生機化・食糧化学) ○山崎正夫^{1,2}、農新介¹、
立花宏文²、山田耕路²

3) Free 型および TG 型 CLA のマウス移植性肝ガンの増殖に及ぼす影響

(¹九大院・農・生機化、²オーム乳業(株)・開発部、³九大院・医・消化器総合外科)
小柳奈未¹、山崎正夫^{1,2}、西田江里¹、北川孝江¹、荒巻文香¹、農新介²、辻田英司³、
島田光生³、前原喜彦³、立花宏文¹、山田耕路¹

4) 共役リノール酸の乳癌細胞増殖抑制効果

(¹九大院・生機化・食糧化学、²オーム乳業(株)・開発部) ○中條瞳¹、山崎正夫²、
農新介²、小柳奈未¹、立花宏文¹、山田耕路¹

5) CLA の癌増殖抑制および血管新生抑制作用

(東北大院農) ○都築毅、得山佳子、田中寿美、神戸朋子、五十嵐美樹、宮澤陽夫

6) CLA の肝癌細胞増殖抑制と PPAR の関わり

(¹東北大院農、²椛山女学園大・人間栄養)○五十嵐美樹²、都築毅¹、宮澤陽夫¹

7) CLA はラットのカイロミクロン代謝に影響しない

(九大院農)高嶋香代子、友寄博子、濱田忠輝、小林誠、吉田理貴、○池田郁男

8) 走運動トレーニングラットに及ぼす CLA 摂取の影響ー運動機能を反映する筋肉 および血液の生化学指標についてー

(¹順天堂大スポーツ健康科学部、²順天堂大医学部、³立教大、⁴リノール油脂、⁵東大)
山口正弘¹、鯉川なつえ¹、井上節子^{1,3}、豊嶋博²、岩田敏夫⁴、長岡功^{1,2}、澤木啓祐¹、
黒田善雄⁵

9) 共役リノール酸の血圧上昇抑制作用について

(佐賀大・応生科)○永尾晃治、井上奈穂、王玉明、柳田晃良

10) 臨床試験のまとめ

(リノール油脂(株)・研究開発部)○亀谷剛、岩田敏夫、荻田金英

11) 共役リノール酸がラット脂肪組織重量に及ぼす影響

(¹長崎シーボルト大、²熊本県立大、³北大院水)古場一哲¹、赤星亜朱香²、田中一成¹、
宮下和夫³、菅野道廣²

12) 共役脂肪酸によるインスリン抵抗性誘発とアディポサイトカイン

(¹ 北大院獣医、² 北大院水) 大橋敦子¹、松下由紀子¹、宮下和夫²、木村和弘¹、斉藤昌之¹

13) *Candida rugosa* リパーゼを用いた選択的加水分解による共役リノール酸異性体の分画

(¹ リノール油脂(株)、² 大阪市工研、³ 徳島文理大・工) ○山内(佐藤)良枝¹、永尾寿浩²、荻田金英¹、杉原耿雄³、島田裕司²

14) *Candida* リパーゼによる低温での共役リノール酸モノグリセリドの合成

(¹ 大阪市立工業研究所、² リノール油脂(株)、³ 徳島文理大) 渡辺嘉¹、山内(佐藤)良枝²、永尾寿浩¹、山本隆也²、荻田金英²、杉原耿雄³、島田裕司¹

15) リパーゼを用いた共役リノール酸異性体の高純度精製

(¹ 大阪市工研、² リノール油脂、³ 徳島文理大工、⁴ 佐賀大農、⁵ 京大院農) ○永尾寿浩¹、山内(佐藤)良枝²、杉原耿雄³、岩田敏夫²、永尾晃治⁴、柳田晃良⁴、安達修二⁵、島田裕司¹

16) 共役脂肪酸生産に有用な微生物反応の探索と開発

(京大院・農・応生科) ○岸野重信、安藤晃規、杉本聡、三原皓典、小川順、清水昌

17) 微細藻類による共役脂肪酸含有トリアシルグリセロールの生成

(¹ 鹿大院・連農、² 宮崎大・農、³ 築野食品(株)) ○雪野繼代¹、林雅弘²、前田恵理²、井上良計³、村田寿²

総 括 (熊本県立大) 菅野道廣

原則として講演・質疑応答の時間を含め 15 分で進行したいと思いますので、よろしくご協力下さい。

2. 懇親会(函館国際ホテル; 18 時～20 時)

文献に読むわが国における CLA 研究の現状

菅野道廣
(熊本県立大学)

CLA 懇話会も第 5 回を迎え、慶賀の至りです。わずか 5 年間とはいえ発足時の状況とは比較にならない充実した内容の討議の場となってきました。

CLA 関連文献は、ウイスコンシン大学のホームページにより網羅できる状況にあり、加えて、種々のいわゆる Nutraceutical 関係図書や学会誌の総説、さらには AOAC からの Advances in CLA Research などから、現状解析ができます。研究の意味づけや方向性の判断が容易にできるようになっています。

しかし、視点を変えると、この興味ある脂肪酸にもはや新しい事象がどれくらい残されているのかという懸念もあり、今後の研究の展開はむしろかなり難しくなっているような気がします。この憂苦が杞憂に終わることを願う次第です。いずれにしても、情報の徹底的解析と研究者の頭脳との戦いが続きそうです。

今回、国際的なレベルで入手できる CLA 情報について、日本からの貢献という観点から表面的な解析を試みました。その結果について説明しますが、わが国の CLA 研究の現状と今後の展望にいくらかでも資することができれば何よりです。

引用情報源：<http://www.wisc.edu/fri/clarefs.htm>、Advances in CLA Research、INFORM (わが国の情報ネットについては検討していませんので、誤解のないように願います)。